

長野県外国人介護人材受入支援事業集合研修 △塩尻市会場 ▽長野市会場



### 目次

外国人介護人材受入支援事業研修会・・・	1
コロナ記事社会福祉法人大樹会①・・・	2
大樹会②・ルポ国家試験受験者激励・・・	3
なんなんフェスタ発表会模様・・・	4

南信支部研修報告／新入社員の言葉・・・	5
福祉用具の紹介・・・	6
事務局からのお知らせ・・・	7
ケア輪久・編集後記・・・	8

## 介護の現場から ～コロナをどう乗り切った？～

「社会福祉法人大樹会レポートあおき」で勤務されている多田周治さんから、実際に施設内で感染が発生した時の対応について回答していただきました。

発生日：11月28日～12月19日(22日間発生)

感染者数：計41名（想定含む）入所者27名（増床フロアー26名。既存フロアー2名）

ショート3名（帰宅後2名）

職員11名（増床5名、既存2名、看護2名、事務所1名、訪問介護1名）

### ①実際のコロナ対応についての生の声を聞かせて下さい（各部署より）

#### 【陽性ゾーン】

- ・陽性ゾーンのマニュアルがほしい。初動の動き方。更衣室。休憩場所。洗濯関係。ゴミ関係。備品。食事と水分の提供方法。入所者の服の出し方。クーリング方法。オムツ交換方法等マニュアルがほしい。
- ・指揮命令系統の確立をしてほしい。

#### 【介護】

- ・人材不足下でのワークスケジュールがほしい。→通常時と居室対応時
- ・入所者の他部署の移動が考えられるので、簡単に作成可能な状況表を用意したい。
- ・喫煙所でゾーン別の職員同士が一緒になっていた。

#### 【看護】

- ・ゾーン内外の看護師配置が上手くいかなかった。感染対応スキルの標準化ができていなかった。褥瘡が出来そうな方の対応。ADL低下が見られる方の対応について。検討が必要

#### 【厨房】

- ・状況によって変化していくことには対応するが、出来ないこともあるので簡単に決めつけるのはやめてほしい。

#### 【相談員】

- ・家族の反応は温かいものが多かった。
- ・ショート休止によりご家族・居宅に迷惑をかけたが、1月以降の利用は順調

#### 【在宅】

- ・ショート利用者が退所時は陰性だったが、後日陽性となる方がいた。デイサービスや訪問介護を利用しており、感染拡大したと思われる事案があった。特養以外にも目を向けて考える必要がある。

#### 【本部】

- ・本部・情報共有の徹底。→情報に敏感になる中、新しい情報や欲しい情報が入ってこない。変更事項が毎日ある中で、全部署の共有は難しい。→情報は本部に集約したい。

## ② 施設の対応方法や取り組みはどんなことをしていますか？

※注意点、菌を持ち込まない、広げないよう対応する。主な内容は下記参照。

- ・1度居室に入れた物品は外に出さない。
- ・アイスノンや袋は袋に入れアルコール消毒。2重にしてクリーンゾーンに持ち込み日付を書く。
- ・汚れた服やシーツ、布団、マットはアルコール消毒大透明袋に包み、マジックで日付と名前を記入し外に出す
- ・基本居室に入ったら出入りの回数は最小限にし、居室の行き来は控える。
- ・陽性ゾーンに1度入ったら、濃厚ゾーンに行く事は絶対禁止。(ワーカーの振り分けで対応)
- ・柵を乗り越える事が不可能な入所者は、感染対応中に限り、四点柵とトイレ介助からオムツ交換に切り替える等して対応。
- ・柵を乗り越え危険な入所者は、コールマット使用や畳の居室。コールを押してもらう。
- ・基本1動作、アルコール手指消毒、手袋交換。
- ・初期陽性ゾーンを増床フロア136～138号室とし、そこを起点に陽性・濃厚接触者ゾーン。その他のゾーンと分けてワーカー・NSを配置し。陽性・濃厚接触者ゾーンは防護服着用。1動作アルコール消毒。手袋交換。汚物や食事は外にゴミ袋設置しすぐに捨てる。また、陽性、濃厚接触者は全て居室対応とし、食事介助・オムツ交換・検温と必要最低限の介助のみとする。居室への入退室を極力1回で済ませるようにする。

## ③ 職員のPCR検査のタイミングはどんなときでしたか？

- ・PCR検査未実施。11月29日抗原検査全職員行う。
- ・熱発者、体調不良者(喉の痛み・咳等)違和感を感じた職員は、休みとし病院で検査をその都度実施。

## ④ 今後の再発防止策についての取り組みはどのように考えていますか？

### 【短期課題】

- ・陽性ゾーンのマニュアルとBCPの作成・感染委員会のスキルアップを行いたい
- ・陽性者と濃厚接触者の待機期間の見直し・夜勤中に体調不良になった場合の対応・県から頂いた抗原検査キットの配布。

### 【長期課題】

- ・感染研修→今西認定NSによる外部研修と別で感染委員会による内部研修の実施

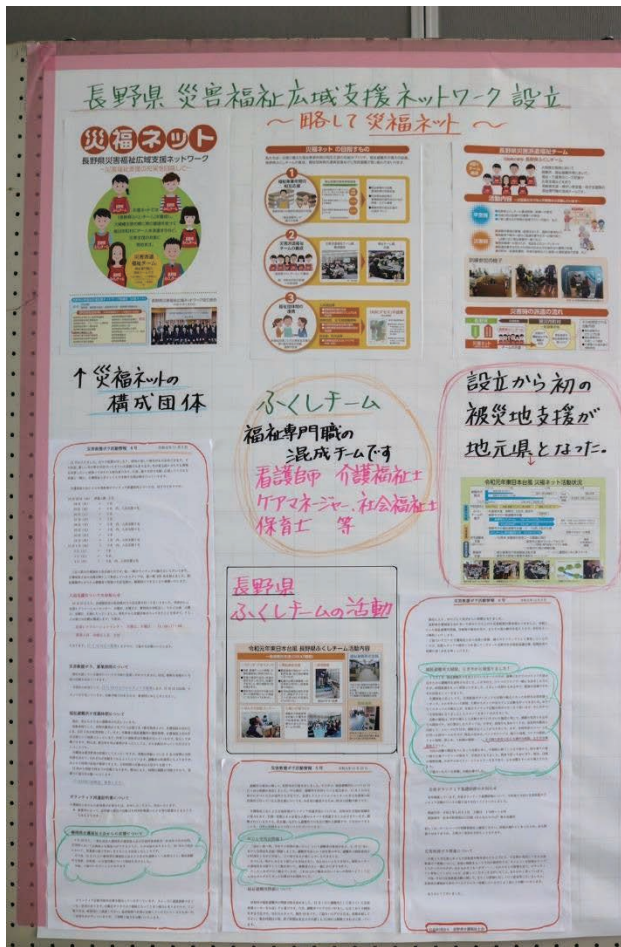
### ルポ

国家試験受験者激励  
ホッコイロくぱり声掛けはげまし  
2023年2月19日(日)  
①極寒の朝7時松本駅アルプス口  
受験場所松本短期大学移動のバス  
10台に受験者乗車

②大原学園松本校写真



# なんなんひろば～文化祭～



災害支援の活動状況が壁新聞で展示されました。作品を手がけてくださったのは、本木智恵子さん半場千恵美さんです。

今回の作品につきまして、コメントを頂きました。

『介護福祉士』という職業を地域の方に知っていただくために、文化祭に参加しています。介護の現場に特定せず、災害が起きた時に被災地でどんな活動をしたのか、実際の活動内容も見てもらえばいいと思いました。カラーを使い分けてまとめたので、伝えたいことがはっきりしたのではないかと。ということでした。本木さん、半場さん素敵な作品をありがとうございました。

目で見て分かりやすく、ハッキリとした色使いはポイントがおさえられていますね。

いざというときの為にきちんと把握しておかなければならない内容ばかりです。

災害とはいつ起こるか分かりません。今回まとめてくださった内容を頼りに、個人個人が備えられるよう努めたいと思いました。

今後とも活動をよろしくお願い致します。素晴らしい作品をありがとうございました。

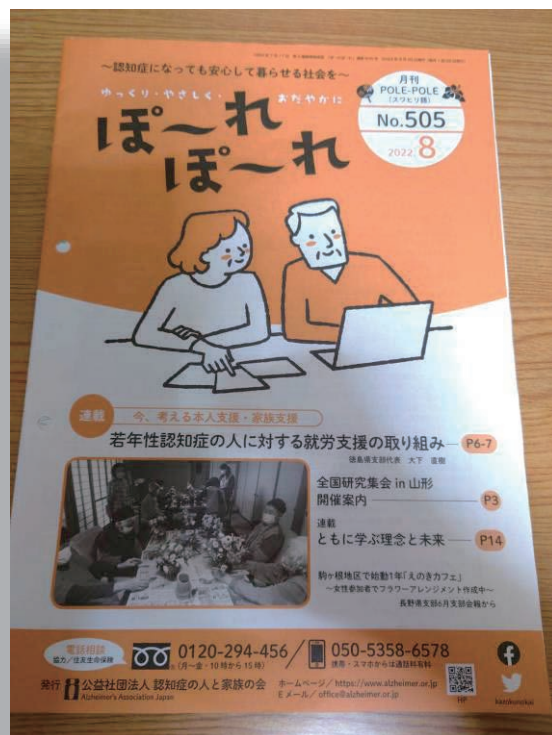
# 認知症の方と向き合う家族を知る

南信支部 名取 孝介

12月13日に富士見町社会福祉協議会で研修会を開催しました。認知症対応向上研修の一環で「認知症の人と暮らす家族の思い」をテーマに、公益社団法人認知症の人と家族の会 鎌田晴之さんに講演をしていただき学びを深めました。認知症の人と暮らす家族の状況や会の活動についてわかりやすく講義頂きました。

認知症の人と家族の会は、1980年京都で設立され当初は「呆け老人を抱える家族の会」でした。認知症の人と暮らす家族の相互支援（ピアカウンセリング）、その三本柱は「つどい」「電話相談」「会報」との事です。47都道府県支部で1万人、長野県支部には185人の会員がいます。日本には介護者を支援する法体系が整備されておらず「ケアラー支援条例」がある県は11県にとどまっています。認知症の人の家族の心理ステップとして驚愕・戸惑い・否定から最終的に受容まで行きつくというものがありますが、実際には行きつ戻りつでなかなか受容をしきれないというのが現状です。認知症の人の介護者には【娘・息子・妻・夫・嫁】と様々な立場があり心理ステップや傾向が異なってきます。介護従事者として関わり方のポイントもそれぞれですが、ご利用者家族との関わりを振り返る機会となりました。どの立場やどの心理ステップにある介護者においても、介護仲間との交流はとても力になるのだという言葉が印象に残りました。

写真：認知症の人と家族の会が発行している会報



## 新入社員からのフレッシュな言葉

中信支部 清水千絵美

- ①小学生の時にやっていたブラスバンド部で、老人施設へ何度か訪問した事がきっかけです。関わらせて頂いた時に、言葉であらわせないような、心が温かくなるような気持ちを感じました。その時に、将来は老人の方と関わる仕事をしたいなと思いました。
- ②気持ちに寄り添った介護を心掛けています。自分だったらこうして欲しいな、これはヤダなどと、置き換えながら関わるようにしています。
- ③介護も時代と共に変わってると思うので、新しい技術を身につけたり知識も古いままではなく、常に新しい事を学び現場で活かせればなと思っています。

よく見かける標準型車椅子は「短時間の移動用」です。キャンプで使う折りたたみイスと同じで、折りたたみができて軽くて便利ですが、活動や参加をするときに使うイスとしてはどうでしょう。ぜひ30分～1時間程度座ってみてください。長時間座るには楽ではない乗り物だと気づくと思います。

使用する方に合わせて適切な車椅子を選択し、最適な状態に設定・調整するための理論と技術をシーティングと呼びます。

【目的】

- ①適切な姿勢保持による二次障害（変形等）の予防
- ②快適性の提供と褥瘡の予防
- ③残存機能の最大限の発揮

【効果】

車椅子使用者の自立度や積極性が向上し、活動・参加を促進させ、当事者の人生をより豊かなものにします。自立度の向上により、介護者（施設職員・家族等）の負担軽減につながります。

【対象者】

重度の身体障害者だけでなく、軽度な方、アクティブな方、アスリートも含めた障害児、障害者、高齢者が対象となります。

【実施者】

医師、リハビリテーション専門職、エンジニア、当事者、家族、介護者 等シーティングを行うことで、

- ① 適切な姿勢保持による二次障害（変形や褥瘡等）の予防
- ② 心身機能・構造の改善を促す
- ③ 残存機能の最大限の発揮
- ④ 活動と参加の促進

ができます。そのためには多職種が協働し、支援することが大切です。



座位能力	選択の目安となる車椅子とクッション	車椅子とクッションの一例
<p>1. 手の支持なしで座位可能</p>	<p>自力で座位保持ができる人が対象。身体の大きさにあった車椅子を選ぶ。クッション選択の際は、座り心地や動きやすさを評価する。普通型車椅子対応の座・背クッションが市販されている。</p>	<p>ウレタンフォームの座クッション（大人用クッションタイプ4） 普通型車椅子対応の座・背クッション（ノビットシステム） ウレタンフォームを用いた着者自作の座クッション</p>
<p>2. 手の支持で座位可能</p>	<p>骨盤や体幹をサポートすることで、身体を支えている手が使えるようになる。モジュラー車椅子を選択することで、身体の大きさにあわせたり、座や背の角度調整などができる。自分で除圧動作ができない場合が多いので、クッションは除圧機能と座位保持機能を併せもったものを選ぶ。</p>	<p>モジュラー車椅子（レボ） ゲルとウレタンの複合クッション（デュオジェル・クッション） 空気とウレタンの複合クッション（ソロPSV）</p>
<p>3. 座位不能</p>	<p>骨盤、体幹のほかに頸部や頭部のサポートが必要になる。リクライニングをしたときに身体が前滑りしないよう、ティルト機能がついた車椅子などを選択する。クッションはより除圧能力のあるものを選択する。背面の伸圧分散用の背クッションも必要になる。</p>	<p>ティルト・リクライニング機能付き車椅子（マイチルト） 空気調節式クッション（ロホ・クワトロセレクト ハイタイプ） ジェル状の流動体クッション（JAY J2）</p>

（岩谷清一 他：[特集] 動きを支援するポジショニング・シーティング。車椅子・クッションの選択と調整。リハビリナース48：p53, 2014より許諾を得て転載）

## 事務局からのお知らせ

研修のご案内・詳細は3月26日以降 HP にて <http://kaigo-nagano.jp/>

公益社団法人 長野県介護福祉士会

「定時社員総会記念講演」

講演

「かなしみをあたためる」

講師



長野県松本市東山東山皇寺住職(曹洞宗)  
長野県松本市東山東山皇寺住職(曹洞宗)協NPO法人アルウィズ  
「デイホーム」管理師  
保健司(松本地区保健司会) 教師(有明高原寮)  
任意市民団体「ケア集団ハートボート」代表。

場所: 松本市勤労者福祉センター 0263-35-6286  
参加費: 無料 (関係職種・学生・一般住民の皆さん  
どなたでも参加できますのでお出かけください)  
連絡先: 公益社団法人 長野県介護福祉士会  
☎: 026-223-6670 fax: 026-223-6679

6月17日 土曜日 [14:30~16:00]

### キャラ決定!! かいごちゃん

シンボルマークの色合いを重視した  
2色のパーツは成長と発展  
冷静さと判断を表し信州をイメージした  
山のエプロン。  
顔はリンゴをイメージぬくもりのオレンジ色の光がさしています。  
天使をイメージした羽が中央に描かれています。シンボルマークと信州らしさをイメージした、かいごちゃん



### 介護認定福祉士養成研修受

講者 募集始まる

記念誌完成状況 間近 5月発送予定  
楽しみにしてください。



詳細 QR

ケアワーク信濃 令和5年度 発行予定  
6月号 8月号 10月号 12月号 3月号 です



## 介護移乗用リフトの多様な種類

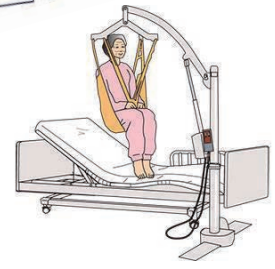
移乗方法には介助者を介護者が抱えて車椅子に移る方法、介護者を介助者が抱えトランスファーボード・スライディングシートを使用し車椅子へ平行移動する方法、バスタオル・トランスファーボード・スライディングシートを使用し二人で移乗する方法、移乗用リフトを使用して移動する方法があります。

その中で移乗用リフトには天井走行型リフト（天井に固定）、床走行式リフト、ベッド固定式リフト（予めベッド横に固定）、据置式レール型リフト、据置式面レール型リフト、があり介護リフトに使用されるシートには主に脚分離式シート（ローバック、ハイバック）シート型スリングシートなどがあります。

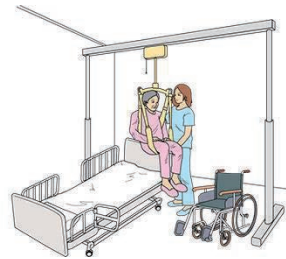
私の施設でも床走行式リフト、据置式レールリフトを導入し介助者の負担の軽減とともに、利用者様の身体にかかる負担の軽減につながっています。



床走行式リフト



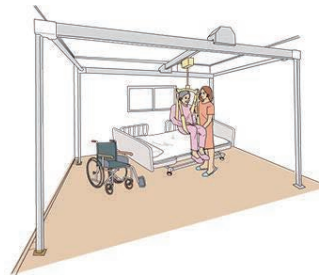
ベッド固定式リフト



据置式レールリフト



天井走行型リフト



据置式面レール型リフト

### 編集後記

今年の冬は積雪量が多く送迎や通勤に苦慮する日がありましたが、梅の花が咲き始め春めいてきました。

今年の5月からコロナウイルスは2類相当から5類へ分類変更になりますが、福祉施設では現在と変わらぬ対策もしくは、インフルエンザと同様の対策が必要となり、利用者様に活動を制限していただく日々が続きそうですね。

今年度、私の施設では2月に1回お楽しみ会を開き、利用者様に外出がなかなか出来ない分、楽しんでいただくとうと、焼き芋を焼いたり、お菓子を作ったりして楽しんでいただきました。楽しんでいただけるように職員同士で計画を立て、喜ばれている様子を見ると嬉しく思います。制限がある中ではありますが、利用者様の笑顔が引き出せるよう努力したいです。

南信支部 大原英洋